

科目 14

科目名	アントレプレナーシップ論 Entrepreneurship		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・月・4 限	春・月・6 限	-	-
担当教員名	岸田 伸幸	e-mail		
<p>&lt;講義の概要と目的&gt;</p> <p>ベンチャー創業者、社内起業家、企業家的経営者などが、起業前後に遭遇しがちな諸問題の理解と、対処の指針や方法を、事例研究や技法解説を通じて学ぶ。起業人材や起業活動に係る主要な研究成果を論理的に理解し、自らの資質と課題を考える。ベンチャー経営のベストプラクティスを把握する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>様々な起業の局面でリーダーシップを発揮する人材の基礎として、起業家の経済的・社会的意義と、典型的起業活動であるベンチャー起業時の経営ノウハウを知り、同時に、優れた学術的起業研究成果を学び、起業人材の資質や能力を、社会環境や経営資源との関数として相対的に理解する見識を養う。</p> <p>&lt;アクティブ・ラーニング要素&gt;</p> <p>事前配布の資料や事例に基づくクラス討議を行う。クラス討議では、グループごとに輪番で質疑役を担当させることがある。共通課題図書に基づくグループワークと、その成果発表会を予定する。</p> <p>&lt;講義計画&gt;</p> <p><b>1 回目：「アントレプレナーシップ」とは</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：本講座の進め方について説明する。起業家の現代的使命と時代認識を共有する。アントレプレナーシップ及びベンチャーの定義を学び、ベンチャーと在来産業を新事業創造の視点で整理する。</li> </ul> <p><b>2 回目：起業家資本主義の勃興</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：米国発のベンチャー経済の勃興から始まり今世紀に至る日本の起業家資本主義の展開を知る。主要な段階を起業家事例に即して辿ることを通じ、事業機会を探索する「鳥の眼、虫の目」を磨く。</li> </ul> <p><b>3 回目：起業家エコシステムの形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：起業家活動の社会的基盤となるエコシステム論を学ぶ。理論的側面と内外の形成過程とを知り、日本の現状と展望を起業実践の立場から理解する。グループワークのための班編成を行う。</li> </ul> <p><b>4 回目：起業家事例研究[ゲスト講義]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：地域でスタートアップした若手起業家を招いて実践的経営論を聞き、起業家エコシステムを循環する希少な資源である起業家人材と、新潟地域での起業家エコシステムについて考える。</li> </ul> <p><b>5 回目：経営哲学、事業理念；起業家の形而上学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：起業活動および事業経営に於ける形而上的・定性的要素の重要性を理解する。著名起業家・有力企業を題材にクラス討議を行い、理解を深める。自分自身の経営理念のあり方について考える。</li> </ul> <p><b>6 回目：エフェクチュエーションのアプローチ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：シリアル起業家の経験則から抽出されたエフェクチュエーション理論の、5 段階の事業創造プロセスを学ぶ。その事例研究に基づくクラス討議を通じて、実践的応用方法を理解する。</li> </ul> <p><b>7 回目：起業家事例研究[ゲスト講義]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：地域で新事業開発を行う女性起業家を招き、人的つながりを活かした起業活動について聞く。クラス討議を通じて、地域でのエフェクチュアルな事業創造活動を考える。</li> </ul>				

## 8 回目：起業競争力の源泉

・要点：知的財産権と起業家が使いこなすべき知財戦略を学ぶ。大学発ベンチャー、大企業発ベンチャー、ハイテクスタートアップの特性を論じ、公的高等研究機関・地方技術試験場等の役割を考える。

## 9 回目：ベンチャー成長の理論

・要点：スタートアップ期／リスク成長期の経営課題と対処方法を知る。マーケティング、ブランド戦略、キャッシュフロー管理などの起業の定石を学ぶ。急成長期ベンチャー事例でクラス討議する。

## 10 回目：起業家の資質と経営チーム

・要点：企業家に求められる資質と特徴に関する主要な研究成果を知る。起業段階特有の経営チーム組成に関する留意点を学ぶ。これらを踏まえて起業チームのケーススタディを行い、理解を深める。

## 11 回目：ベンチャー人材マネジメント

・要点：成長段階に応じたベンチャー人材戦略を学ぶ。人事マネジメントシステム（報酬体系・人事考課・教育訓練）の構築について知る。事前配布資料に基づきクラス討議を行い、理解を深める。

## 12 回目：ベンチャーファイナンス 1

・要点：ベンチャー企業の成長に応じた資金ニーズの変化を知る。創業資金の確保、金融機関の利用、ベンチャーキャピタルの概要と活用戦略、クラウドファンディングについて、学ぶ。

## 13 回目：ベンチャーファイナンス 2

・要点：投資家／ステークホルダーとの協創関係を学び、株式上場の得失を知る。各種企業価値評価方法の意義と特徴を論ずる。事例研究とクラス討議を通じ、資本政策の理論と実際の理解を深める。

## 14 回目：起業家活動の現在と支援策[ゲスト講義]

・要点：起業／ベンチャーの第一線で活躍中の実務家を招き、実務レベルで用いられる事業計画などについて学ぶ。また、COVID-19 以降の首都圏を中心とした起業活動の現状や支援政策の動向を聞く。

## 15 回目：グループワーク発表会

・要点：グループワークの成果を発表し、クラス討議を行う。質疑を通じて、本科目で学んだ各種論点や理論が適切に反映されているかを確認する。最終レポートの内容・提出について確認する。

### <講義の進め方>

教科書、参考書に沿って講義を行う。また、履修者を各数名のグループに編成して報告発表を課し、クラス討議を行う。題材は事例や雑誌記事、教科書・参考書の章課題等から事前に指示する。

### <事前事後学修内容>

各授業で扱う教科書と参考書の該当部分、並びに事前配布資料がある場合はそれを精読すること。小課題がある場合は期限までに答案を作成して提出すること。詳細は講義時に指示する。

### <予習・復習時間>

各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示する。

### <教科書及び教材>

下記教科書ほか随時所要の教材・参考資料を、プリント、電子ファイル等で配布する。

長谷川博和（2018）『ベンチャー経営論』東洋経済新報社

<参考書>

- E・リース『リーン・スタートアップ』日経BP社(2012)
- P・F・ドラッカー『イノベーションと企業家精神』ダイヤモンド社(2007)
- R・マグレイス/I・マクミラン『アントレプレナーの戦略思考技術』ダイヤモンド社(2002)
- S・リード、S・サラスバシー、N・デュー他『エフェクチュアル・アントレプレナーシップ』(2018)

ナカニシヤ出版

- S・サラスバシー『エフェクチュエーション』中央経済社(2015)
- 大前健一ほか『決定版!「ベンチャー起業」実戦教本』プレジデント社(2006)
- 加来耕三『日本を再興した起業家物語』日本経済新聞社(2012)
- 木谷哲夫『ケースで学ぶ実戦企業塾』日本経済新聞社(2010)
- 清成忠男『事業構想力の研究』宣伝会議(2013)
- 勿那憲治ほか『アントレプレナーシップ入門』有斐閣(2013)
- 長谷川博和『ベンチャーマネジメント[事業創造]入門』日本経済新聞出版社(2010)
- 星野達也『オープン・イノベーションの教科書』ダイヤモンド社(2015)
- 前田昇/安部忠彦編『ベンチャーと技術経営』丸善(2005)

<成績評価方法>

欠席6回以上は成績評価しない。

小課題・クラス貢献30%、中間レポート20%、グループ発表25%、期末レポート25%の割合で評価する。欠席6回以上は成績評価しない。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

提出後の講義回やTeamsを通じてフィードバックを行う。

<履修条件>

特になし

<ディプロマポリシーとの関連>

基礎知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

月曜日3限および5限。

<その他>

グループ発表への積極的参加とクラス討議のために、Webでの情報収集など事前準備を推奨する。ゲスト講師の都合で日程や演題を変更することがある。